

平成27年度

全国学力・学習状況調査の結果について

山梨県教育委員会

1 調査の本県の概要

○平成27年4月21日（火）実施

○調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査内容

- ・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象とした。
- ・教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科から出題された。
- ・国語、算数・数学については、主として「知識」に関する問題：A問題（身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容など）と、主として「活用」に関する問題：B問題（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容）を出題。理科は、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題。また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施。

○県内(公立学校)の参加状況

	公立小学校	特別支援学校 小学部	公立中学校	特別支援学校 中学部	合 計
学校数 (分校含む)	179校	2校	85校	2校	268校
児童生徒数	7,137人		7,206人		14,343人

2 教科に関する調査の本県の結果について

(1) 全体の結果

各教科の結果（公立）

	小学校調査					中学校調査				
	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A	B	A	B	AB	A	B	A	B	AB
平均正答数 (本県／設問数)	9.6 ／14	5.8 ／9	11.9 ／16	5.5 ／13	14.5 ／24	25.1 ／33	6.0 ／9	22.9 ／36	6.2 ／15	13.5 ／25
平均正答数 (全国／設問数)	9.8 ／14	5.9 ／9	12.0 ／16	5.9 ／13	14.6 ／24	25.0 ／33	5.9 ／9	23.2 ／36	6.2 ／15	13.3 ／25
平均正答率(本県)	68.5	64.8	74.1	41.9	60.4	76.1	66.2	63.6	41.2	54.1
平均正答率(全国)	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0
全国平均正答率との差	-1.5	-0.6	-1.1	-3.1	-0.4	0.3	0.4	-0.8	-0.4	1.1
H26【悉皆】 全国平均正答率との差	-2.8	-0.5	-1.1	-0.6	(0.4)	0.6	1.0	-0.8	-0.1	(1.1)

※理科については、平成24年度の調査結果をもとに比較している。

○全体の概要

- ・教科に関する調査の平均正答率は、±5%の範囲内（-3.1%から+1.1%）にあり、ほぼ全国と同等である。

※文部科学省では、±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できると述べている。

- ・小学校では、国語AB、算数AB、理科ともに全国の平均正答率に届かなかった。
- ・中学校では、国語ABと理科は全国の平均正答率を上回っている。数学ABは全国の平均正答率に届かなかった。
- ・全国の無解答率の平均値5.5%に比べ、山梨県の無解答率の平均値は5.1%であり、全国より無解答数が少ない。

○「知識」「活用」に関する問題について

- ・平均正答率で見ると、どの校種、教科においても「知識」に関するA問題よりも、「活用」に関するB問題の方が低く、全国と同様の傾向が見られる。
- ・一方、全国の平均正答率との差で見ると、「知識」に関するA問題に課題が見られる。ただし、小学校算数は、B問題の方に課題が見られる。

(2) 各教科の成果

小学校 国語	A	・話の内容に対する聞き方を工夫すること
	B	・目的に応じ，文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えること
小学校 算数	A	・小数の加法の結果を，減法を用いて確かめるとき，当てはまる数値の組み合わせを書くこと
	B	・平行四辺形の性質を基に，平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを判断すること
小学校 理科	A	・顕微鏡の名称について理解すること
	B	・地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について，グラフを基に考察し分析すること
中学校 国語	A	・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと
	B	・資料の提示の仕方を工夫し，その理由を具体的に書くこと
中学校 数学	A	・空間における直線と平面の垂直について理解すること
	B	・事象を式の意味に即して解釈し，その結果を数学的な表現を用いて説明すること
中学校 理科	A	・魚類のように背骨のある動物の名称を，背骨のない動物の名称に対して答えること
	B	・電磁誘導の既習知識を活用して，回路のスイッチの入り切りによる磁界の変化を説明すること

(3) 各教科の課題

小学校 国語	A	・コラムの中で，筆者が引用している言葉を書き抜くこと
	B	・文章と図とを関連付けて，自分の考えを書くこと
小学校 算数	A	・示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断すること
	B	・示された情報から基準量を求める場面と捉え，比較量と割合から基準量を求めること，図形の性質を基に，根拠となる事柄を過不足なく説明すること
小学校 理科	A	・メスシリンダーの名称について理解していること
	B	・水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係を示したグラフのデータを基に考察し，その内容を記述すること
中学校 国語	A	・それぞれの品詞が文のどのような成分になるかを理解し，単語を類別すること
	B	・相手や状況に応じて，資料を活用して話すこと

中学校 数学	A	・具体的な事象における数量の関係を捉え，連立二元一次方程式をつくること
	B	・与えられた情報から必要な情報を選択し，的確に処理すること
中学校 理科	A	・塩化ナトリウムの正しい化学式を選ぶこと
	B	・溶け残った物質の量を溶解度に結び付け，分析して解釈し，炭酸水素ナトリウムを溶かした試験管がどれかを指摘できること

(4) 各教科での全国の平均正答率との差

◎・・・全国の平均正答率と比較し一番大きく上回っている設問

△・・・全国の平均正答率と比較し一番大きく下回っている設問

		設問	山梨県 正答率	全国 との差
小学校 国語	A	◎聞き方の説明として適切なものを選択すること〔3〕 △コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜くこと〔5二〕	54.0% 17.5%	+1.0 -2.3
	B	◎【文章】の要旨をまとめて書くこと〔2二〕 △文章と図とを関係付けて，自分の考えを書くこと〔2三〕	79.1% 39.4%	+0.7 -2.2
小学校 算数	A	◎小数の加法の結果を，減法を用いて確かめるとき，当 てはまる数値の組み合わせを書くこと〔1（3）〕 △ $5/6 \div 7$ を計算すること〔2（4）〕	84.6% 79.3%	+2.6 -4.9
	B	◎二組の道のりが，それぞれ等しくなることを書くこと〔1（3）〕 △示された図形の色がついた部分の面積を求めること〔5（2）〕	28.8% 40.5%	+1.1 -7.3
小学校 理科	A	◎示された器具（顕微鏡）の名称を書くこと〔2（3）〕	67.6%	+6.0
	B	△示された器具（メスシリンダー）の名称を書くこと〔3（4）〕	65.2%	-5.5
中学校 国語	A	◎要望を適切に捉え，回答案の冒頭に一文を加えること〔7二〕 △「青さ」の品詞として適切なものを選択すること〔9四②〕	71.5% 30.3%	+5.1 -3.4
	B	◎演奏するタイミングを選択し，その理由をノートの内容と結び付けて書くこと〔1三〕 △ノートのその他の情報を役立てられる場合として適切なものを選択すること〔1一〕	59.4% 71.9%	+3.2 -1.3

中学校 数学	A	◎直方体において、与えられた辺に垂直な面を書くこと 〔5〕(1)〕 △連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を表した式を選ぶこと〔3〕(3)〕	58.3%	+10.9
	B	◎映像の明るさを2倍にするための投映画面の面積の換え方を選び、その理由を説明すること〔1〕(3)〕 △投映距離と投映画面の高さの関係を式で表すこと〔1〕(1)〕	13.9%	+2.2
中学校 理科	A	◎背骨のある動物の名称を答えること〔8〕(1)〕 △同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えたとき、どちらが炭酸水素ナトリウムであるかを選ぶこと〔1〕(2)〕	72.8%	+8.9
	B		29.9%	-2.7

(5) 各教科の結果 ◎・・・平均正答率が一番高い設問
△・・・平均正答率が一番低い設問

		設問	山梨県 正答率	全国 正答率
小学校 国語	A	◎漢字(招く)を正しく読むこと〔1〕一(1)〕 △コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜くこと〔5〕二〕	97.6%	97.5%
	B	◎目的に応じ、適切な言葉を書き抜くこと〔2〕一イ〕 △目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと〔1〕三〕	86.4%	86.0%
小学校 算数	A	◎ $28 + 72$ を計算すること〔2〕(1)〕 △円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶこと〔5〕(1)〕	98.1%	98.2%
	B	◎平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶこと〔1〕(1)〕 △20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書くこと〔2〕(2)〕	49.0%	50.6%
小学校 理科	A	◎地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選択すること〔4〕(6)〕	95.7%	95.2%
	B	△水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書くこと〔3〕(6)〕	8.8%	13.1%
			83.8%	84.2%
			26.7%	28.9%

中学校 国語	A	◎適切な語句を選択すること（将来は、 <u>気象</u> 予報士になりたい）〔9三ア〕 △「青さ」の品詞として適切なものを選択すること〔9四②〕	98.0%	97.6%
	B	◎「お泣きなさるな」という翻訳の効果として適切なものを選択すること〔3一〕 △資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書くこと〔2三〕	30.3%	33.7%
中学校 数学	A	◎12:9と等しい比を選ぶこと〔1(1)〕 △赤いテープの長さがa cmで、白いテープの長さの3/5倍のとき、白いテープの長さをaを用いた式で表すこと〔2(2)〕	92.3%	93.6%
	B	◎連続する3つの整数が19, 20, 21のとき、それらの和が中央の整数の3倍になるかどうかを確かめる式を書くこと〔2(1)〕 △映像の明るさを2倍にするための投映画面の面積の換え方を選び、その理由を説明すること〔1(3)〕	19.1%	22.2%
中学校 理科	A	◎天気図から風力を読み取ること〔2(1)〕	79.0%	78.8%
	B	△湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善すること〔2(3)〕	13.9%	11.7%
中学校 理科	A	◎天気図から風力を読み取ること〔2(1)〕	82.9%	77.9%
	B	△湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善すること〔2(3)〕	13.0%	14.5%

3 生活習慣や学習環境等に関する本県の結果について

(1) 児童生徒質問紙 ※肯定的な回答をした割合で、全国平均と5ポイント以上の差があり、かつ、上位10項目までに該当する項目

①望ましい状況

質問項目	山梨県	全国との差
＜小学校＞		
・ 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行くこと	29.4%	+11.8
・ 今住んでいる地域の行事に参加していること	77.1%	+10.2
・ 学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていること	90.3%	+9.8
・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいること	75.2%	+9.4
・ 5年生までの授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたこと	80.6%	+6.4
・ 家で、学校の授業の復習をしていること	60.6%	+6.1
・ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあること	91.3%	+5.2
＜中学校＞		
・ 今住んでいる地域の行事に参加すること	60.6%	+15.8
・ 学級会などの時間に友達同士で話し合っって学級のきまりなどを決めていると思うこと	90.7%	+12.4
・ 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいること	65.9%	+7.9
・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があること	63.6%	+7.7
・ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあること	91.4%	+7.2
・ 1，2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うこと	72.6%	+6.9
・ 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことを難しいと思わないこと	42.2%	+6.6
・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあること	39.3%	+6.4
・ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦すること	74.9%	+6.1
・ 1，2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思うこと	84.3%	+6.1

○「本県の子どもたちの様子」について

学校生活において、学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったという経験のある児童生徒の割合が 9 割を超えており、学級のなかで友達との話し合い活動や交流活動に参加している様子が見られる。また、児童生徒が、各学校において、調べたことを整理して発表する学習活動に取り組んでいる様子も見られる。

○「家庭学習の時間の 1 時間以上確保」について

小学校、中学校ともに昨年度重要課題と位置付けて、各学校と家庭で連携し、取組を進めてきた「家庭学習の時間の 1 時間以上確保」について改善が見られた。全国平均レベルにまで向上した。

②課題とみられる状況

質問項目	山梨県	全国との差
<小学校> 該当項目なし		
<中学校> ・ 1, 2 年生のときに受けた授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思うこと	56.7%	-17.0
・ 1, 2 年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思うこと	71.8%	-7.9

○今後、取組を進めていく内容について

本県では、昨年度から、「授業における学習の目標（めあて・ねらい）を授業のはじめに板書する」取組を各学校に呼びかけ、その取組を推進してきている。これは、先進県視察によって、「授業における学習の目標を提示することが学習内容の理解に効果的であること」が判明したためである。本県における取組は、昨年度から本格的に各学校において実践が行われてきているが、調査参加生徒が 1 年生当時には、そうした指導が重点的に行われていなかったことが影響している可能性がある。今後も、継続して、この取組を進める必要がある。

(2) 学校質問紙 ※肯定的な回答をした割合で、全国平均と 5 ポイント以上の差があり、かつ、上位 10 項目までに該当する項目

①望ましい状況

質問項目	山梨県	全国との差
<小学校> ・ 前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行うこと（月に数回程度以上行った。）	69.1%	+21.5
・ 前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えること	58.6%	+18.6
・ 知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成していること	94.5%	+9.5

・前年度までに、理科の指導として、児童に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導すること	82.3%	+8.7
・理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行うこと	88.4%	+8.4
・言語活動に重点を置いた指導計画を作成していること	97.3%	+8.4
・学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていること	96.7%	+8.1
・前年度までに、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにすること（国語／算数共通）	97.8%	+8.0
・前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えること（国語／算数共通）	86.7%	+7.2
・理科の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行うこと	54.2%	+7.0
＜中学校＞		
・前年度に、「朝の読書」などの一斉読書の時間を週に1回以上設けたこと	96.5%	+13.9
・模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行うこと	98.8%	+11.3
・言語活動に重点を置いた指導計画を作成していること	93.1%	+11.0
・前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行うこと	26.4%	+10.9
・学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思うこと	94.3%	+9.1
・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行うこと	72.4%	+9.0
・学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行うこと	94.3%	+8.5
・前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしたこと	87.4%	+8.4
・前年度までに、生徒に対して本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導したこと	86.2%	+8.2
・前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしたこと	95.4%	+7.6

○「本県の学校の様子」について

小学校においては、家庭学習や言語活動の充実に向けたさまざまな取組が行われている様子が見られる。中学校においては、課題解決のために情報を収集する方法について指導したり、調べたことや考えたことを発表させる方法について指導を行ったりして言語活動を充実させている様子が見られる。

○「学校長の校内巡視」について

小学校、中学校ともに重要課題と位置付けて、取組を進めてきた「学校長の校内巡視」について改善が見られた。学校長が校内を巡視する機会に関する調査項目では、今年度、小学校で、全国平均を上回り、93.9%となり、昨年度に比べて20ポイント以上上昇した。中学校でも、全国平均を上回り、87.3%となり、昨年度に比べて30ポイント以上上昇した。

②課題とみられる状況

質問項目	山梨県	全国との差
<p><小学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校と連携（教師の合同研修，教師の交流，教育課程の接続など）を行うこと ・算数の指導として，前年度までに，発展的な学習の指導を行うこと ・前年度までに，授業で扱うノートに，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導すること 	56.9%	-9.8
<p><中学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の指導内容や指導方法について近隣の小学校と連携（教師の合同研修，教師の交流，教育課程の接続など）を行っていること ・前年度までに，授業で扱うノートに，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導したこと ・前年度に，週に1回以上，放課後を利用した補充的な学習サポートを実施したこと ・学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより，保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれること ・前年度までに，授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたこと 	58.6%	-16.9
	70.1%	-11.8
	14.8%	-8.7
	63.2%	-6.5
	89.7%	-6.0

○今後、取組を進めていく内容について

小学校では，算数の指導において発展的な学習の指導を行うことに課題のあることが明らかになった。今後，発展的な学習内容の指導に取り組んでいく必要がある。また，中学校においては，「授業で扱うノートに，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くこと」に課題のあることが判明した。今後，各授業において計画的に指導する必要がある。さらに，今回の調査からは，小学校，中学校ともに，教科の指導内容や指導方法について小中連携を図ることの重要性も示された。地域の連携を通して，指導の充実を図ることが大切である。

4 今年度の取組

○学力向上対策監，地域学力向上推進幹の設置

- ・ 校長へのマネジメント（学校訪問時に、「目標・指導・評価の一体化」や「学校と家庭との連携」など学力向上へのアプローチについて指導する）
- ・ 指導主事研修会の開催（小・中・高の連携や交流を推進するよう指導する）

○県教委による自己採点の実施

- ・ より早く県全体の概要や課題の所在を示すことが，学力向上に向けて効果的であるとの判断から，今年度文部科学省に先駆けて小，中学校合わせて約420名分の答案を指導主事が採点し，結果の概要をまとめ，誤答を分析した。これらの結果をパンフレットにまとめ，1学期中に管理職研修会及び学力把握調査結果説明会等で示し，各学校の主体的かつ効果的な取組を推進している。

○確実な日々の指導につなげていくため，全小中学校の代表者を集め，県の結果の分析と授業改善についてより具体的に示すなど，研修会の内容を充実させる。

※下線が今年度の取組

「学力向上フォーラム2015」の開催

（小学校：10月1日，中学校：9月29日）

- ・ 小学校と中学校を別日の開催にすることで，きめ細かな対応を図る。
- ・ 県教委が，各校種・教科別に授業改善のポイントやパンフレットを作成し，全小中学校の代表者を集め，説明を行う。算数を中心に課題（全国との平均正答率の差がある設問等）とその改善点について指導主事が具体的に説明する。
- ・ 確かな学力の定着と向上を図る授業改善のあり方について，講師（算数・数学科）を招聘し，パネルディスカッションを行う。
- ・ 授業改善プラン実践事業推進校に加え，近隣の学校や総合教育センターにおける学力向上の取組についてもポスターセッションで紹介し，児童生徒の課題に沿った具体的な授業改善の実践を発表することで，県下に広げていく。
- ・ 学校としての課題を明確にして授業改善を図るとともに，児童生徒一人一人の解答状況に目を向け，個に応じた指導を行っていくことを改めて徹底する。

「臨時校長研修会」の実施（9月29日）

- ・ 全県の校長を集め，今回の結果の分析を具体的に伝えるとともに，小中学校の連携や交流の推進についても指導を行い，共通理解を図る。

- 1 「臨時合同指導主事会議」の開催（9月16日）
 - ・ 全県の指導主事を集め、今回の結果の分析を行うとともに、対策について協議する。
- 2 「授業力養成講座」の開催（9月～2月）
 - ・ 小中学校の教員の各教科における指導技術等の授業力向上を図る。
- 3 「学力向上の集い」の開催（10月～12月）
 - ・ 県下5地区で、各教育事務所等との連携の下、保護者を対象に各地域の課題や実態に応じた学習会を開催する。
 - ・ 家庭学習の充実を題材に、実践発表や講演等を行う。
- 4 授業改善プラン推進校の実践的研究（～3月）
 - ・ 推進校では授業改善のポイントに基づいて、学校での検証改善のサイクルを回す実践を行い、成果を近隣の学校に普及していく。
- 5 ピックアップ問題の作成と配付（11月下旬）
 - ・ 県の学力把握調査の結果により課題の見られた問題を抽出するとともに、全国学力・学習状況調査の結果を受け、課題のある学習内容についてのピックアップ問題を作成し、各学校に配付、改善に取り組みさせる。
- 6 学力向上フォローアップ事業の推進（～3月）
 - ・ 児童生徒の基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るため、放課後や土曜日等を活用した児童生徒への補習的学習を実施する。
- 7 若手教員グロウアップ事業の推進（～3月）
 - ・ 経験3年以内（期間採用含む）の教員の資質向上を図るため、退職教員（アドバンスティーチャー）を派遣し、学習指導や学級経営等に関する専門的指導等を行う。
- 8 学力先進県視察の実施
 - ・ 学力向上に成果をあげたり、先進的な取組を行ったりしている県市に、指導主事を派遣し情報収集を行う。